

### 基本情報



【年 齢】  
42歳  
【出身地】  
東京都  
【転出元】  
東京都  
【前 職】  
自営業  
【活動時期】  
R3.7～

### 協力隊に応募したきっかけ

以前祖父母が近隣町村で暮らしており、子供の頃幾度も訪れた。十数年振りに木曽郡を訪れると以前より高齢化が進み活力の低下を感じた。また数年間2拠点生活を送り、有機農業の勉強を始め、就農を希望するようになった。その様な中、偶然農業担当の募集を知りすぐに応募した。人が減る未来を地域社会が生き抜くには、基礎体力が有りリソースが豊富な内のイノベーションが必要不可欠だと思う。イノベーションの面で自分自身の経験を地域貢献に活かせると感じた。

### 今後の抱負・任期後の目標

オーガニック米を村の特産に育てたい。また「大桑ブランド」を確立し広めていきたい。当初任期中に有機稲作の作付け面積を増やし、退任と同時に村内で就農、空き農家の購入し定住を目標としていた。しかし国の就農支援の枠組みの問題や任期中は小面積の試験栽培に従事するなど状況の変化もあった。販売が出来ないのでブランド化は難しくなった。今後も有機稲作技術の研鑽に努めたい。また村内農家にも技術を広めたいと思う。他地域に先駆け有機米を広められれば今後の発展が期待できると思う。

### 活動内容

#### ●有機稲作試験栽培

有機栽培は慣行栽培以上に土壌、気候、水温、標高、地域雑草の種類など理解する必要がある。地域に合った栽培方法が確立できれば村内全域で共有することが可能になると思い試験栽培を開始した。種まきから、有機JAS規格に合わせた技術確立に努めている。



#### ●有機稲作の技術研究

村内には無農薬稲作に取り組む農家が無いため県内外の民間研究所で研修を受けてきた。実際の技術、科学的裏付けなど学んだ。今後この技術をどうやって村民に還元するかが課題。また地元農家で慣行稲と一緒に作り通常の稲作も学んでいる。



#### ●農産物の特産化

村内で米が一番作付面積が多い。一次産業は差別化が難しく特に米は品種や産地の価格差が少ない。有機米なら高単価化出来る。また十数年前に植えられた柿の木が放置されつつある。これを活かし柿の特産化を考えている。人口が少ないので今あるリソースを生かさなくては持続できないと感じている。



### 連絡先

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】  
もう一人の農業担当の隊員がインスタを立ち上げてくれたので今後一緒に運営していく予定。